串木野駅周辺開発全体構想

目的

本編 P.1

本構想は、串木野駅周辺の将来的な位置づけやまちづくりの方向性を明確にし、多様な観点からプリマハム鹿児島工場跡地の活用を検討するとともに、鉄道駅からの交通動線の変化を見据えた空間構成を検討することで、串木野駅周辺一帯の賑わい創出はもちろん、市全体の活性化に寄与することを目的として策定します。

対象地及び概況

本編 P.1

対象地

串木野駅及びプリマハム鹿児島工場跡地（以下「工場跡地」という。）を含む駅周辺エリア

概況

- JR串木野駅に近く、西側は既成市街地。
- 串木野ICにも近く、比較的良好なアクセス環境。
- 駅東側には広大な工場跡地が存在。
- 県道39号線は片側１車線。周辺道路は幅員が狭いものが多数。

＜本構想の対象地＞

URL：https://www.openstreetmap.org/copyrightを下図に、基盤地図情報（国土地理院）を追記して作成

内部環境

本編 P.19～20

【本市の強み・特徴】

- 自然豊かな環境
- コンパクトな暮らし
- 食文化・地場産業
- 国際交流
- 環境維新のまち　等

【本市のまちづくりの動向】

- 人口減少・少子化対策が喫緊の課題。
- 粘り強い少子化対策とまちの魅力づくりに向けた取組
  → 3つの無償化等の人口減少・少子化対策のほか、洋上風力発電構想の実現、長崎鼻公園リニューアル、安茶工業団地の整備、旧冠岳小学校跡地の活用、沖ノ浜一帯の構想　等

市民・関係主体等の意向

本編 P.29～41

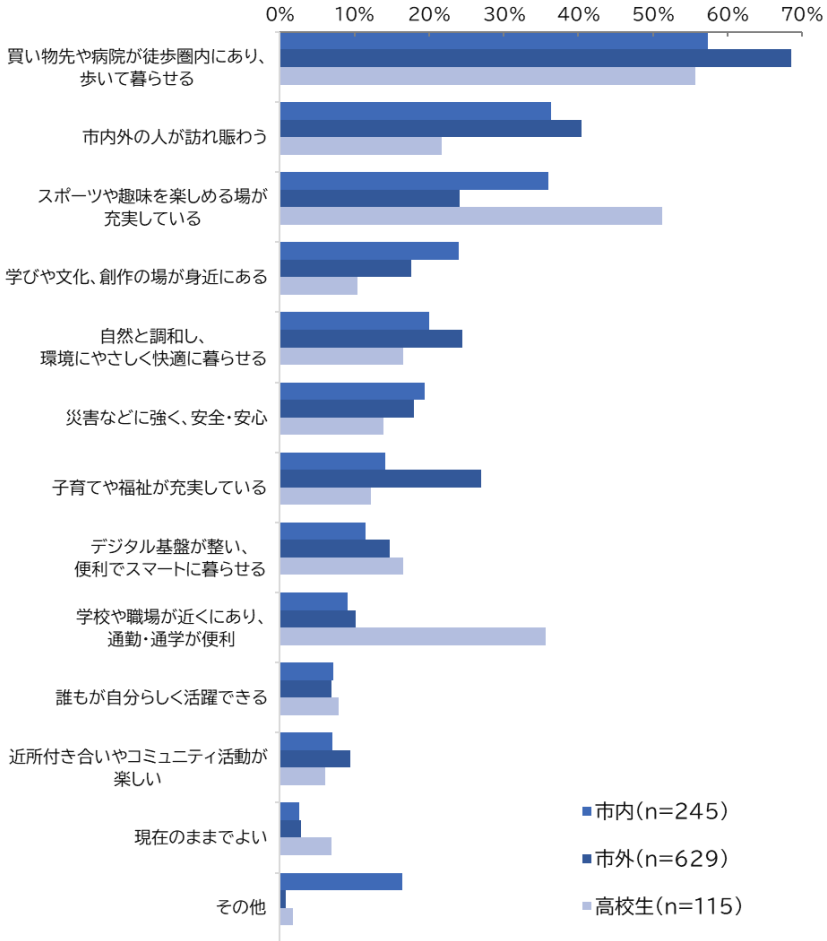
市民等の意向
（アンケートの結果から）

- JR串木野駅周辺の今後の方向性として、「**買い物先や病院が徒歩圏内にあり、歩いて暮らせる場所**」、「**市内外の人が訪れて賑わう場所**」などが求められています。
- 高校生からは、「スポーツや趣味を楽しめる場が充実している」、「学校や職場が近くにあり、通勤・通学が便利」なども求められています。

関係主体の意向
（ヒアリングの結果から）

- 定住人口の増加や雇用促進、県内で一番になれる場所、本市の魅力を活かした差別化などが求められています。
- 公共施設、複合施設、広場・公園、遊び場、宿泊施設など、多様なアイデアが寄せられています。
- 交通量の増加に伴う交通安全や渋滞への懸念もあげられています。

＜JR串木野駅周辺の今後の方向性＞



●アンケートの実施概要

	市民等	高校生
対象	いちき串木野市民及び市外在住者	鹿児島県立串木野高等学校の生徒
方法	WEBアンケート	WEBアンケート
回答期間	2025年10月20日～11月7日	2025年12月5日～12月15日
周知方法	広報いちき串木野、市公式LINEによる周知	鹿児島県立串木野高等学校への依頼
回答数	874件 （市内在住者629、市外在住者245）	115件 （市内在住者79、市外在住者36）

●ヒアリングの実施概要

実施期間	2025年11月～12月
方法	対面でのヒアリング
対象 ※五十音順	• いちき串木野市社会福祉協議会 • いちき串木野商工会議所 • いちき串木野市保育連絡協議会 • 学校法人神村学園 • 株式会社鹿児島銀行串木野支店 • 上名地区まちづくり協議会 • 中央地区まちづくり協議会 • 特定非営利活動法人鹿児島いちき串木野観光物産センター • 濵田酒造株式会社

串木野駅周辺のまちづくりの位置づけ

本編 P.42～43

内部環境

本市の強み・特徴

- 自然豊かな環境／コンパクトな暮らし／食文化・地場産業／国際交流／環境維新のまち　など

本市のまちづくりの動向

- 粘り強い少子化対策とまちの魅力づくりに向けた取組

市民等の意向

- 買い物先や病院が徒歩圏内にあり、**歩いて暮らせる**場所
- **市内外の人が訪れて賑わう**場所
- **スポーツや趣味を楽しめる場が充実**している
- 学校や職場が近くにあり、**通勤・通学が便利**

関係主体の意向

- 定住人口の増加、雇用促進、県内で一番になれる場所、本市の魅力を活かした差別化
- 公共施設、複合施設、広場・公園、遊び場、宿泊施設
- 交通量の増加に伴う交通安全や渋滞への懸念

外部環境

- 車移動圏30分以内に、鹿児島市や薩摩川内市などの**人口集積地が存在**
- 鹿児島市や薩摩川内市など近隣自治体でも、集客・交流施設の整備など**新たなまちづくりが進行**

上位計画における位置づけ

- 総合計画等の基本理念「**住み続けたいまち住んでみたいまちづくり**」、「**小さくても豊かなまちづくり**」の実現への寄与
- 「**都市拠点**」として「都市機能の集積・高度化」を図る位置づけ

課題

市全体の活性化に向けて、若い世代を中心に、
多世代が訪れたい・働きたい・住み続けたいと思える、**本市ならではのまちの魅力向上**が必要

JR串木野駅周辺のまちづくりの位置づけ

市民のワクワクが広がるまちづくり

ワクワクとは

未来に対する前向きな期待感や、何かに挑戦したいという主体的な気持ちが高まっている状態

目指すまちの姿

- ✓ JR串木野駅周辺のまちづくりでは、市民一人ひとりが「ワクワク」を感じられるきっかけを、様々な場面で増やしていきます。
- ✓ その小さなきっかけから、市民の主体的な行動が生まれ、その行動がまた誰かに波及していく、というように、市民の行動が連鎖し、まち全体に「ワクワク」が広がる好循環を目指します。
- ✓ そして、ワクワクしながら暮らす市民そのものがまちの魅力となり、市外からの誘客につながるなど、まちの活気につながっていくことを目指します。

跡地活用の方向性・コンセプト

本編 P.44～45

跡地活用の課題

本市の限られた財源の中でも、広大な敷地のポテンシャルを最大限に活かすことが必要

跡地活用の戦略

① 官民連携により事業効果を最大化する
② 公共主導で人が集まる拠点をつくり、市場のポテンシャルを高めることで、民間の参画意欲を高める

跡地活用の方向性

「市民のワクワクが広がるまちづくり」を先導する拠点

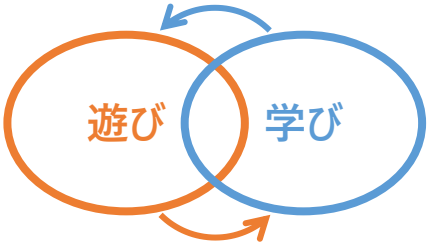
跡地活用のコンセプト

学びと遊び

ハードルの低い入口・きっかけとしての「遊び」から、内発的な動機による行動変容を支える「学び」へとつなげることで、市民の「ワクワク」が連鎖する場を目指します。

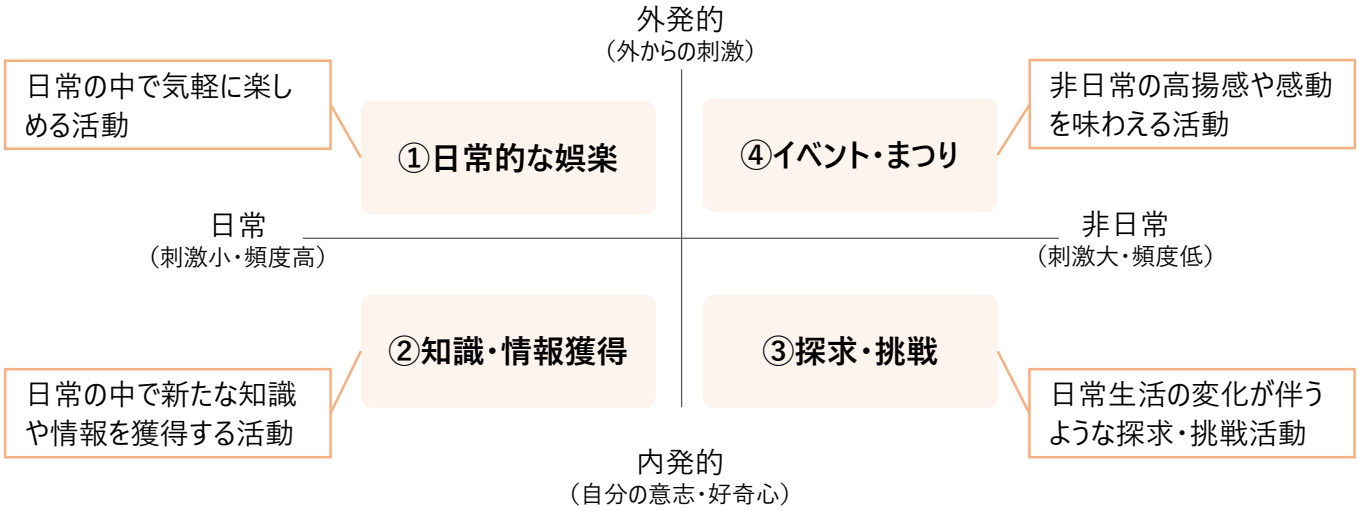
● **学び**
単なる知識や技能の習得（勉強）にとどまらず、好奇心に基づいて自発的に探求し、自分自身の行動や考え方を変容させるプロセス。

● **遊び**
日常生活の実利を離れ、心を満足させることを目的として、自発的に取り組む自由な活動。「学び」の原点となる活動。



「ワクワク」の連鎖

＜「学びと遊び」の活動イメージ＞



導入機能

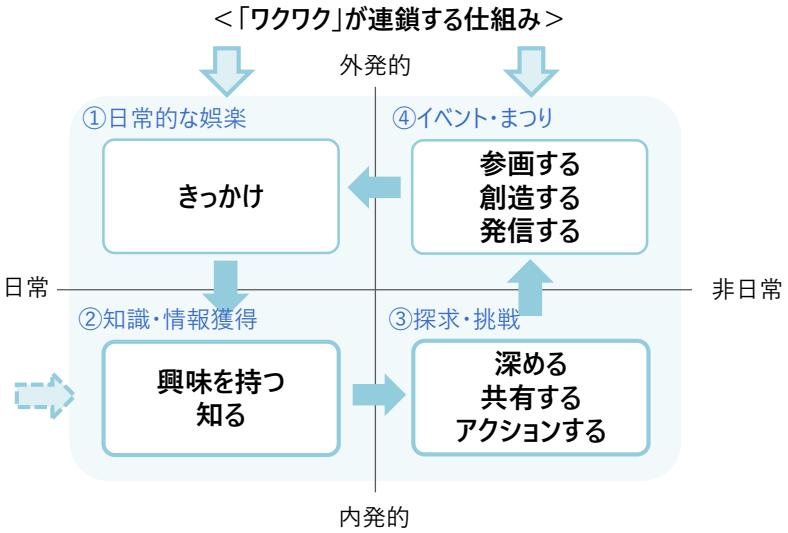
本編 P.45～47

①跡地の「顔」となる機能

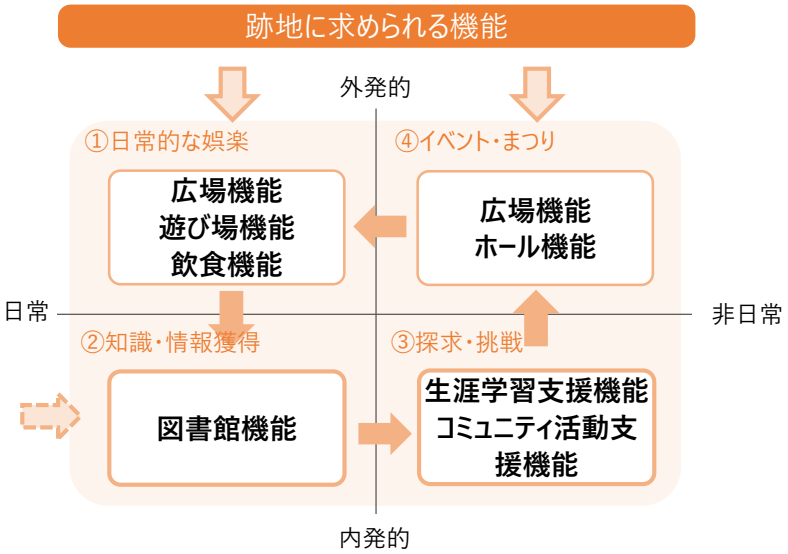
跡地の中では、「ワクワク」につながる「内発的な動機付けによる活動」が起こることを重視します。

そのための仕組みとして、まずは来訪や参画へのきっかけとなる「①日常的な娯楽」、「④イベント・まつり」など、外発的な刺激による楽しみを適切に配置し、来訪者が気軽に関わりやすい入口を整えます。

さらに、「内発的な動機付けによる活動」へ段階的に移行しやすい環境づくりを行うことで、来訪者が継続的に関与し、「ワクワク」の連鎖が生まれやすい場とすることを目指します。



上記を踏まえ、「学びと遊び」から「ワクワク」が連鎖する場に必要な機能を、跡地の「顔」となる機能として右図のとおり整理します。



②市の発展を下支えする機能

上記の機能のほか、跡地の立地の優位性や事業の位置づけを踏まえ、市の政策課題や市民ニーズに対応し、市の発展を下支えする機能を以下のとおり抽出します。

●市の政策課題：**人口減少・少子化対策**
- ◇結婚・出産・子育て支援
- ◇女性活躍社会への対応
- ◇若者の地元定着、定住促進
- ◇転出抑制
- ◇留学生が活躍できる環境整備
- ◇新たな雇用創出

●跡地への期待（市民等ニーズ）
- ◇歩いて暮らせる
- ◇市内外の人が訪れて賑わう
- ◇スポーツや趣味を楽しめる場が充実している

立地の優位性／事業の位置づけ等

跡地に求められる機能
- 子育て支援機能
- 暮らし・生活機能
- 働く場としての機能
- 交流促進機能

動線・ゾーニング

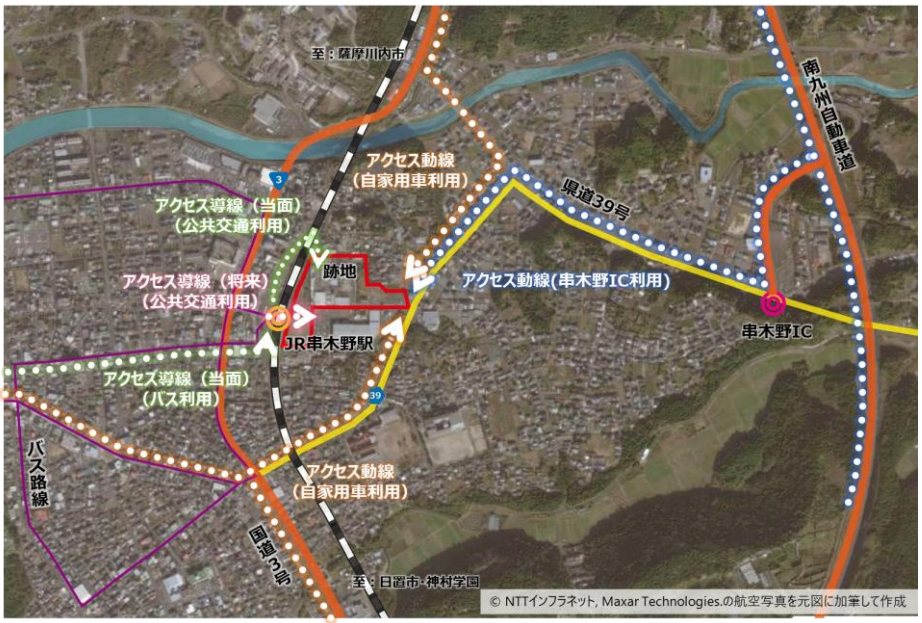
本編 P.48～50

交通動線

将来的にはJR串木野駅の東西をつなぐ動線の可能性を検討していますが、公共交通利用者は駅西口から駅を迂回し、南北方向からアクセスすることを前提とします。

また、現状では市民の主な移動手段が自家用車に依存していることから、主な動線は県道39号を経由するものとし、跡地の東側が主のアクセス口になることを想定します。

＜交通動線の想定＞



ゾーニング

ゾーンは、「公共主体ゾーン」及び「民間誘導ゾーン」の２つを想定します。

公共主体ゾーン

公共が主体となって、官民連携で先導的なまちづくりを進めるゾーン

民間誘導ゾーン

民間の投資意欲を高め、民間による多様なサービス提供を目指すゾーン

＜ゾーニング＞

＜ゾーニングの考え方＞

●公共施設へのアクセス性
- 公共交通及び車の双方でアクセスしやすい配置
- 駅や駐車場から施設までの歩行距離を最小限に抑えられる配置

●駅前の賑わい創出
- 民間誘導ゾーンは民間の意向に左右されることから、民間施設の立地が想定通りに進まない場合でも、駅前の賑わい創出が可能となる配置

●周辺道路への配慮
- 周辺の道路が混雑しないよう、適切な車両動線
- 車の出入りがスムーズになる動線

各機能の概要・ゾーンの想定

本編 P.47,49

跡地への導入を想定する機能及び立地するゾーンは、以下のとおりです。

＜各機能の概要と立地するゾーンの想定＞

分類		機能	概要・特色等	ゾーンの想定※	
				公共主体ゾーン	民間誘導ゾーン
跡地の「顔」となる機能	日常的な娯楽	広場	散歩や軽運動など日常的に楽しめる場	●	
		遊び場	年齢や天候を問わず遊べる場	●	
		飲食	多様な世代の人の居場所	●	
	知識・情報獲得	図書館	誰でも気軽に立ち寄れる場	●	
	探求・挑戦	生涯学習支援	知識を深めたり、実践したり、挑戦したりできる場	●	
		コミュニティ活動支援			
	イベント・まつり	多目的ホール	知識等を発信、発表できる場	●	
		広場（再掲）	様々なイベントに対応できる場	●	
市の発展を下支えする機能		子育て支援機能	子育て支援の場	●	
		暮らし・生活機能	買い物先や病院が徒歩圏内にあり、歩いて暮らせる場	○	●
		働く場としての機能	雇用が生まれる場	○	●
		交流促進機能	来訪者が宿泊できる場		●
集客を目指す上で必要な機能		交通機能	駐車場、自転車置き場等	●	●

※●が「主として配置を想定すること」、○が「条件次第で配置の可能性があること」を示します。

＜導入機能に関する考え方等＞

施設の魅力向上や運営の効率化に向けた工夫	• 各機能は、公共サービスを前提としつつ官民連携手法を積極的に導入することで、民間のノウハウや創意工夫を活かし、施設の魅力向上や集客力強化につなげるとともに、運営の効率化やコスト最適化を目指します。
第 2 期公共施設等総合管理計画等との整合	• 既存施設と重複する機能については、第 2 期公共施設等総合管理計画及び第 2 期建物系個別施設計画との整合に留意しつつ、必要に応じて当該計画を見直すことも想定しています。
民間事業者の意向をふまえた精査	• 立地するゾーンは、事業の採算性や民間サービスとしての提供可能性等を考慮して想定しますが、民間誘導ゾーンについては、民間事業者の意向の影響を受けることから、今後、民間事業者の意向等も参考にしながら精査していきます。

事業手法の想定

施設の整備・運営にあたっては、官民連携手法の導入を積極的に検討します。

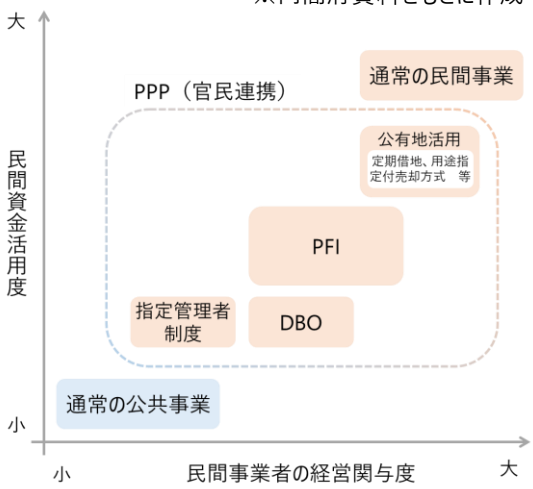
各ゾーンにおいて、想定される事業手法は以下のとおりですが、今後、民間事業者の意向等も参考にしながら、最適な事業手法を精査していきます。

＜事業手法の想定＞

	事業手法の想定	手法の概要
公共主体ゾーン	通常の公共事業	公共が主体となり、施設の設計・建設及び運営を行う。
	PFI方式	PFI法に基づき、民間事業者が資金調達を行い、施設の設計・建設及び運営を行う。
	DBO方式	公共が資金調達を行い、施設の設計・建設及び運営を民間に委託する。
	指定管理者制度	施設の使用許可等に係る権限を民間事業者に移転した上で、民間事業者が公の施設の運営を行う。
民間誘導ゾーン	定期借地※	用地全体に定期借地権を設定し、民間事業者に用地を貸し付け、民間事業者が資金調達し施設整備及び運営を行う。
	用途指定付売却方式※	活用用途を指定し土地を民間事業者に売却し、民間事業者が資金調達し施設の整備及び運営を行う。

＜事業手法の概要イメージ＞

※内閣府資料をもとに作成

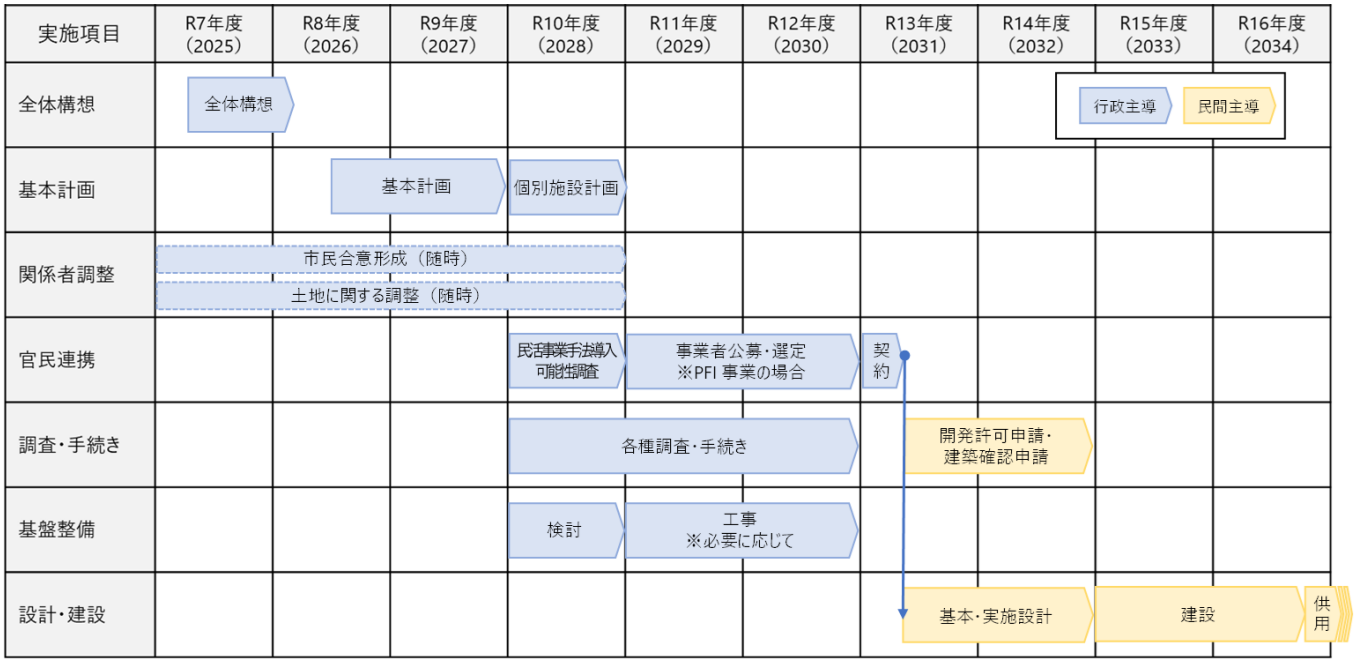


※ 定期借地や用途指定付売却方式を採用する場合も、効率的かつ一体的なまちづくりを推進するため、先行して市が跡地の敷地全体を取得し、市有地として活用することを想定しています。

スケジュールの想定

跡地における施設整備スケジュールの想定は、以下のとおりです。

＜スケジュールの想定＞



整備イメージ

本編 P.53～54

鳥瞰イメージ

図書館のイメージ

広場のイメージ